

神の民を裁く主

アモス書2章

主はこう言われる、「イスラエルの三つのとが、四つのとがのために、わたしはこれを罰してゆるさない。(6)

前の章の3節から一つの定型句を用いて、ダマスコ、ガザ、ツロ、エドム、アンモン、モアブなどの諸外国に対する神の審きが語られてきました。

その予先はついに、ユダとイスラエルに向けられました。預言を語っているアモスの直接の聴衆であるイスラエルの人々は、最初のうちは自分たちに敵対する諸外国に神の審きが下るのを心地よい思いで聞いていたでしょう。ところが、その神の厳しい審判の鉄槌は彼ら自身の上に振り下ろされることになったのです。アモスの預言は最初から神の民イスラエルに対してこそ向けられていたものでした。それゆえ、他の諸国に対する審きの言葉に比べると、イスラエルに対する言葉はずっと詳細なものになっています。神の民は神によつて特別に選ばれ、他のどの民族よりも多くの恵みを与えられているからこそ、それだけ多くの責任と使命とを負っています。けれどもイスラエルは偶像礼拝に染まり、選ばれた民としての聖さを失っていました。そのために、どの民族よりも厳しく主に裁かれることになるのです。

わたしたちは周りを見まわして、「これぐらいいは誰でもやっている」などと言つて自らの罪を軽く見積もつてはなりません。わたしたちは限りなく主の恵みを知っている者たちです。神の民として、主の恵みに応えて生きるわたしたちでありたいと願います。